

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	交通安全施設等整備事業・交通安全対策特別交付金事業			事業コード	710
所属コード	81000	課等名	建設部 道路管理課	係名	維持係
課長名	近藤 春彦	担当者名	岡田 浩幸	内線番号	2718
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	安全な暮らし	コード	2
	施策	市民生活を守る安全対策の充実	コード	3
	基本事業	交通安全の推進	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 6 目 交通安全対策特別交付金事業 (001-01) 一般会計 8 款 2 項 6 目 交通安全施設等整備事業 (001-03)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰越 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度	
根拠法令等	道路法第 16 条			

(2) 事務事業の概要

交通の円滑化を図り、併せて交通安全と事故防止のため、区画線、防護柵及び道路照明を整備する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市道管理者が行う維持管理業務。経年の劣化等による区画線引き直し、施設の更新、要望等による新設、市道の安全通行の確保及び沿線環境の改善を図る。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

安全で円滑な通行を確保する。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

対策の必要な道路とその利用者。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 計画	25 年度 実績	26 年度 見込み
A 区画線設置	k m	56	56	70	77	62
B 防護柵設置	m	238	238	80	7,830	130
C 道路照明灯設置	基	3	3	1	15	3

(3) 25年度に実施した主な活動・手順

区画線については経年による引き直しを、また、防護柵・照明灯については、新規要望路線への設置を継続実施した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 区画線設置	k m	48	56	70	77	62
B 防護柵設置	m	166	238	80	7,830	130
C 道路照明灯設置	基	5	3	1	15	3

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

交通安全施設の整備を行うことにより、歩行者を含めた、事故防止を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 区画線設置	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	k m	48	56	70	77	62
B 防護柵設置	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m	166	238	80	7,830	130
C 道路照明灯設置	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	基	5	3	1	15	3

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	① 国	千円	1,716	1,817	2,000	26,828
	② 県	千円				
	③ 地方債	千円				21,129
	④ 一般財源	千円	18,149	13,907	14,050	14,646
	⑤ その他()	千円				
	A 小計 ①～⑤	千円	19,865	15,724		
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	250	250	250	420
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	1,000	1,000	1,000	1,680
計	トータルコスト A+B	千円	20,865	16,724	17,050	64,283
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

市道の安全性が向上し、交通事故から生命を守っている。

② 市の関与の妥当性

法定事務であるため、妥当である。

③ 対象の妥当性

法定事務であるため、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市道の安全性を維持向上させることが目的であるため、事業を廃止・休止できない。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

要望に対して現地調査を行い、結果に基づいて継続的に対応する事業であるため、成果の向上余地は少ない。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

適正な積算基準・仕様で実施しており、事業費の削減はできない。整備事業費のコスト削減には限界がある。また人件費の削減については、積算業務は電算化により既に業務量の削減に努めている。監督業務については目的物を完成させるのに必要不可欠であり、現状からの削減は困難である。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市道における交通安全を図るため、必要な事業であり、今後とも工事コストの縮減を図りながら、計画的な実施を検討する。